【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立　鏡中学校

1　前年度 評価結果の概要	・SDGsの実現に向け，SPES(自分たちの手で未来を創ろうプロジェクト)メンバーを中心に，自分たちにできることを考え，実践に移す力を育むことで，自己有用感を更に高めていく。 ・SDGsの視点を意識し，SPES（自分たちの手で未来を創ろうプロジェクト）と連携を図りながら，継続した防災教育を行う。 ・今年度実践した人権・同和教育の内容をベースにした，新たな鏡中のいじめや差別を見抜き，許さない人権・同和教育の推進を図る。 ・落ち着いた生活ができる環境になったことから，生徒の学習意欲を高め，学びに向かう力を高める授業実践を行う。
2　学校教育目標	ともに学び　心がふれあう学校
3　本年度の重点目標	○　ＳＤＧｓ～持続可能な開発目標～を意識した教育活動の展開 ①　開発的生徒指導の推進による新たな校風の確立　②　いじめや差別を見抜き許さない人権・同和教育の推進　③　特別支援教育の視点による生徒対応，支援を要する生徒の早期発見 ④　「チーム鏡」諸問題解決に組織で対応　⑤　基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り，学びに向かう姿勢の涵養

4　重点取組内容・成果指標　／　**中間評価**　／　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師８０%以上	・校内研修を中心に，教職員にマイプランに対する共通理解を行い，学校全体で取組の促進を図る。	A	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師82.1%であった.	B	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師71.4%であった.	B	・以前より落ち着いた学習環境であるため，学力の向上に取り組んでもらいたい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○学びに向かう力を高める学習活動の研究	○　開発的生徒指導の視点を取り入れた授業実践を行う教員１００% ○　質問紙調査「授業では、先生から示される課題や、学校やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいると思う」に肯定的に答える生徒８０%以上	・開発的生徒指導の視点を取り入れた授業の実践を行う中で，教科ごとに開発的生徒指導型授業の共通理解を図る。	B	○開発的生徒指導の視点を取り入れた授業実践を行う教員９６.４%であった。 ○質問紙調査「授業では、先生から示される課題や、学校やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいると思う」に肯定的に答える生徒８０.１%であった。	B	○開発的生徒指導の視点を取り入れた授業実践を行う教員９６.４%であった。 ○質問紙調査「授業では、先生から示される課題や、学校やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいると思う」に肯定的に答える生徒８１.６%であった。	B	・昨年度より，新型コロナウイルス感染の中で学校行事が行えており，生徒の出番が増えていた。授業の進め方も以前と違って，先生の話を聞くだけの授業ではなく，席を離れ話し合っていたり，タブレットを利用していたりする授業もあったりしていたので，今後も進めてもらいたい。	・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○質問紙調査の「人が困っているときは，進んで助けている」と肯定的な回答をした生徒が80%以上。	・人権講演会（人権集会）や道徳に関するアンケートの実施する。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施する。 ・保護者や地域の方と連携したボランティア活動を実施する。	A	●質問紙調査の「人が困っているときは，進んで助けている」と肯定的な回答をした生徒が89.２%であった。 ●生徒会の活動として，毎週木曜日の昼休みに校内の清掃活動に取り組んでいる。	A	●質問紙調査の「人が困っているときは，進んで助けている」と肯定的な回答をした生徒が90.２%であった。 ●生徒会の活動として，毎週木曜日の昼休みに校内の清掃活動の継続と，地域の高齢者に向けて年賀状の作成を行った。	A	・命に関することは，非常に大切なことであるので，今後もしっかり取り組んでもらいたい。新型コロナウイルス感染の中で，ボランティア活動も制限があるが，活動の啓発を継続してもらいたい。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義，いじめの防止等のための取組，事案対処等）について組織的な対応ができていると回答した教員100%。	・いじめ対応についての研修・会議を年間に3回以上行い，いじめに対する初期対応，指導，再発防止等への報告・連絡・相談体制の確立する。	B	●いじめ防止等（いじめの定義，いじめの防止等のための取組，事案対処等）について組織的な対応ができていると回答した教員93.９%であった。	C	●いじめ防止等（いじめの定義，いじめの防止等のための取組，事案対処等）について組織的な対応ができていると回答した教員93.９%であったが，いじめによる不登校重大事態発生に至った。	B	・SNS等でのトラブルにより，実際の生徒間のトラブルになっていく事が多いと聞き，生徒だけでなく保護者にも対策の啓発の必要である。	・生徒指導主事 ・各学年生活指導担当
	◎生徒が夢や目標を持ち，その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒が75%以上	・学級活動や総合的な学習の時間を中心に進路学習を充実させる。 ・あらゆる場面で，夢や目標について自ら考えさせる時間や場の設定を行う。	C	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒が65.２%であった。 ○３年生では，修学旅行や進路，２年生では職場体験，１年生では，地域理解を中心にキャリア教育を行っている。	B	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒が67.１%であった。３年生では，肯定的な回答をした生徒の割合が７４%であったが，学年が上がるにつれて肯定的な割合が増加していた。	B	・３年生は卒業後の進路を考えることで，将来のことを考えるようになるのではないか。３年生になった時に考えられるように，１年生の時から夢や目標がもてる土台づくりを行っていただきたい。 ・校区の文化について学ぶことはよいことである。継続して欲しい。	・各学年主任 ・各担任
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒９５%以上 ●毎日朝食をとって登校する生徒９５%以上	・生活状況調査，食に関する実態調査の実施する。 ・保健だよりの発行する。 ・給食だよりを周知する。	B	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒９６.５%であった。 ●毎日朝食をとって登校する生徒９１．８%であった。	B	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒９７.３%であった。 ●毎日朝食をとって登校する生徒９１．４%であった。	A	・多くの生徒が朝食を取っているが，取っていない生徒はなぜ取っていないのか。保護者が準備する必要がある。	・食育担当 ・養護教諭
	○将来を生き抜く防災教育の導入	○外部から講師を招聘し，SPES（自分たちの手で未来を創ろうプロジェクト）と連携を図りながら防災教育を実施する。	・日本赤十字社(佐賀支部)から講師を招聘し，生徒を主体とした防災に対する講演会を行う。	A	○６月に日本赤十字佐賀県支部より講師を招聘し，生徒一人一人の活動がある防災教育を実施した。	A	○６月に日本赤十字佐賀県支部より講師を招聘し，生徒一人一人の活動がある防災教育を実施した。また，２月に１年生育友会行事として，自衛隊の方々を招聘し，災害時における簡易救助，土嚢づくりなど対処方法の体験活動を実施した。	A	・今後も，防災教育を進めてもらいたい。	・各学年主任 ・各担任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する職員８０%以上。	・定時退勤日(毎週水曜日)の設定と実行する。 ・週２日の部活動休養日を徹底する。	C	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間以内)を遵守する職員は59.４%であった。昨年度より５%の改善であり，８月においては，９７%達成していた。	B	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間以内)を遵守する職員は６１.５%であった。１１月以降改善傾向にある。１月においては，７７%達成していた。	B	・新聞やTV等でも取り上げられている。効率化を進めてもらいたい。	・管理職
	○タイムマネジメントの導入による自主自立の精神の涵養	○タイムマネジメント導入により，時間を意識することで業務改善を行うようになった教員８０%以上	・退勤予定時間(ホワイトボードへの記入)の掲示による可視化する。	A	○タイムマネジメント導入により，時間を意識することで業務改善を行うようになった教員８６.２%であった。	A	○タイムマネジメント導入により，時間を意識することで業務改善を行うようになった教員８０%であった。	A	・今後も，進めてもらいたい。	・管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○SDGsの視点を意識した教育活動の展開	○SDGsの担い手となる人を育てる「質の高い教育の提供」	○SDGsの視点を意識した教育の実践を行った教員８５%以上	・「SDGs～持続可能な開発目標～」の視点を意識した学習活動を通して，持続可能な社会を創るために学び続ける必要性を伝える。	A	○SDGsの視点を意識した教育の実践を行った教員８６.６%であった。	A	○SDGsの視点を意識した教育の実践を行った教員９０%であった。	A	・今後も「SDGs」の視点を意識した，実践してもらいたい。	・各教科担当 ・各学年
○特別支援教育の視点による生徒対応及び支援を要する生徒の早期発見・早期対応	○教員の専門性の向上及び意識の改革 ○「チーム鏡」での組織的な対応	○特別支援の視点による生徒対応力が向上した教員が８０%以上。 ○学校評価保護者アンケートにおいて，「学校は，安全・安心で，いじめのない学校・学級づくりに努めている」の肯定的評価９０%以上。	・特別支援教育に関する研修会を実施し，共通理解を図る。 ・支援会議の定期的な開催と配慮を要する生徒への職員間の情報共有する。 ・SCやSSW，外部機関との積極的に連携する。	A	○特別支援の視点による生徒対応力が向上した教員が８９.６%であった。 ○生徒理解や特別支援教育について，教育センターから講師を２回招聘し，研修会を行って共通理解を図った。	B	○特別支援の視点による生徒対応力が向上した教員が９３．３%でった。 ○学校評価保護者アンケートにおいて，「学校は，安全・安心で，いじめのない学校・学級づくりに努めている」の肯定的評価８８.１%であった。	B	・特別支援教育の充実は，非常に重要である。しっかり，取り組んでもらいたい。 ・昔のいじめ問題とは，いろいろと違っている。いじめが起こらない取組にも取り組んでもらいたい。	・特別支援教育コーディネーター ・教育相談主任 ・生徒指導主事
○新たな校風の確立	○開発的生徒指導の推進による規範意識の向上	○質問紙調査の「学校が楽しい」と肯定的に答える生徒９０%以上 ○生徒会や育友会と連携し，制服の見直しや校則を見直す場の設定	・教育活動全体を通して，役割・出番・承認の場の設定する。 ・生徒会や育友会と連携し，制服や校則の見直しを検討する。	B	○質問紙調査の「学校が楽しい」と肯定的に答える生徒９１．８%であった。 ○制服検討委員会で制服の見直しや生徒会活動の中から出た意見から見直しの検討をしている。	A	○質問紙調査の「学校が楽しい」と肯定的に答える生徒８４%であった。３年生においては，９５．７%が肯定的に答えている。 ○生徒会や育友会と連携し，制服の見直しや校則を見直す場を設定している。	A	・「学校が楽しい」と思うことは，大切である。今後も「学校が楽しい」と思えるように取り組んでもらいたい。	・各学年主任 ・生徒指導主事

●…県共通　○…学校独自　◎…志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・開発的生徒指導の推進による新たな校風の確立 ・いじめや差別を見抜き，許さない人権・同和教育の推進 ・学びに向かう力を高め，基礎・基本の定着